

統計茨城

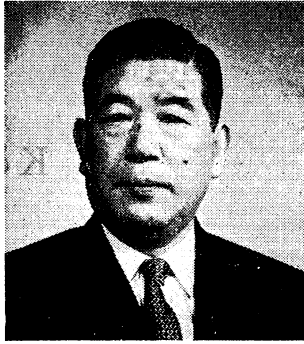
昭和46年 1 月号

目 次

I 巻 頭 言.....	1	II 新たなる年を迎えて回顧と展望.....	16
II 指 標		IV 人口統計の利用方法について.....	17
主要経済指標.....	2	V 国土実態総合統計について.....	18
1 人 口.....	4		
2 金 融.....	6		
3 農 業.....	8		
4 鉱工業.....	9		
5 労 働.....	10		
6 物 価.....	12		
7 家 計.....	14		

利用上の注意

1. 本書中の数値は原則として単位未満は四捨五入。
2. 年度は4月から翌年の3月まで。
3. 記号
 - 零または該当数字のないもの。
 - 0 該当数字が掲載単位未満のもの。
 - … 不詳のもの。
 - p 暫定数字。
 - r 訂正数字。
 - (+) 増加または入超を示す。
 - (-) 減少または出超を示す。
 - x 統計保護のため掲載をひかえたもの。



巻頭言

新年を迎えて

茨城県知事 岩上二郎
茨城県統計協会総裁

明けましておめでとうございます。

晴れやかな昭和46年の新春を皆様と共にむかえ、ここにお祝いできますことを大変嬉しく存じます。

同時に例年のとおり新年の賀詞交換を終え机上の真新しい県民手帳を開きますと年があらたまった感じとともに今年の課題、引き続き懸案事項等が彷彿として浮かび期待と緊張の漲る一瞬を覚えております。

本年は、干支によれば猪年にあたります。猪は、前後の考えもなく無鉄砲に突進する例としてよくつかわれます。

しかし私どもには理性があります。歴史があります。そして何にもましてより豊かな社会、より明るい社会を築こうとする熱意と情熱があります。

私は常に県民による県民のための行政を考え県民のみなさんと歩んでまいりましたが、今年もまた社会情勢は急激に進展していくものと思われまます。

このような中にあつて本県の進む方向の位置づけを知らせてくれるものは皆様のご協力によつて得られる統計情報であります。

昨年は農林業センサス、商業調査、国勢調査と大規模な調査が実施されました。そして特に自然増、社会増により大きく人口増をみた国勢調査の結果は、飛躍する本県の姿を如実に示すものとして、また「農工商全」を基調とした諸施策が漸次成果をあげつつあるものと信じております。これもひとえに、皆様方統計関係者の総力をあげてのご協力があつたればこそと深く感謝申し上げます。

また、統計協会といたしましても、皆様方の積極のご支援により各種事業が活発に実施され、統計思想の普及向上と統計事業の振興発展に寄与できましたことをあわせてここに深く感謝申し上げますとともに本年も各種重要な統計調査が行なわれますが、正確にして信頼され、利用される統計作成のため、前年にもまして格別のご協力を賜りますようお願い申し上げます、新年のあいさつといたします。

昭和46年新春

1 主要經濟指標

主 要 經

Key

茨 城 県

年 月	財政資金 対民間収 支尻	銀 行 勘 定		銀 行 券 増 減	手形交換高		不 渡 手 形		株 式 取引高	県 民 所 得	
		実 預 金	貸出金		枚数	金額	枚 数	金額		純 生 産	分配所得
昭和35年	百万円 15,581	百万円 75,617	百万円 51,718	百万円 2,937	千枚 198	百万円 70,264	枚 2,493	百万円 180	百万円 33,319	百万円 191,333	百万円 190,036
36	14,468	94,148	67,838	2,687	230	75,303	2,535	152	48,336	244,863	227,341
37	23,402	115,285	83,675	1,625	274	88,699	4,808	279	60,230	276,693	262,695
38	(-)25,800	141,041	102,665	(-) 998	311	101,448	5,974	319	40,999	297,111	291,117
39	(-)32,758	165,627	112,699	(-) 5,614	355	142,640	8,828	796	19,485	334,028	323,856
40	(-)37,458	185,609	8,595	(-) 6,228	380	147,872	10,404	847	34,770	※393,652	※419,662
41	(-)42,214	217,545	123,688	(-) 179	436	163,444	9,901	835	46,590	※447,505	※481,624
42	(-)54,001	266,236	146,606	40	484	197,977	8,318	873	40,313	※566,265	※584,122
43	(-)46,293	311,421	166,962	4,517	533	226,801	9,872	1,121	78,315	※688,471	※699,552
44	(-)43,975	434,641	239,067	31,081	560	274,201	9,740	1,111	66,850
※は年度数値											
45・ 6	(-) 3,137	10,752	9,894	5,194	58	30,041	1,205	168	7,339
7	(-) 878	14,768	11,650	(-) 1,648	50	28,432	1,064	148	7,055
8	(+) 5,765	r3,617	r10,809	(-) 1,732	48	27,105	862	134	r5,403
9	(-)11,543	26,989	6,325	1,723	48	27,931	860	140	4,338

全 国

年 月	財政資金 対民間 収支尻	全国銀行主要勘定		全国銀行貸出 約定平均金利	銀 行 券 発行高	手 形 交 換 高		不 渡 手 形	
		預 金	貸 出 金			枚 数	金 額	枚 数	金 額
昭和35年	億円 ※(-) 51	億円 888,722	億円 81,826	日歩銭(%) 2.239(8.17)	億円 12,341	千枚 203,728	億円 669,673	千円 2,172	億円 1,852
36	※ 4,909	103,324	97,701	2.191(8.00)	14,801	221,016	862,205	2,121	2,084
37	※(-)2,033	121,187	114,946	2.250(8.21)	17,459	242,368	1,016,246	2,525	2,805
38	※(-) 614	156,481	145,626	2.133(7.79)	20,574	265,933	1,189,982	2,878	3,492
39	※(-)4,392	178,462	168,297	2.164(7.90)	22,988	290,466	1,431,042	3,726	5,271
40	※(-)2,662	206,531	192,175	2.137(7.80)	25,638	302,975	1,510,970	4,077	5,574
41	※ 2,220	237,900	220,460	2.049(7.48)	29,135	327,352	1,646,702	3,830	5,540
42	※ 752	266,671	253,230	2.004(7.31)	34,115	346,690	1,885,942	3,746	6,435
43	※(-)3,530	310,123	290,328	2.043(7.46)	40,419	364,011	2,252,989	3,752	7,371
44	※(-)1,312	359,789	337,844	-(7.404)	48,113	379,264	2,620,324	3,274	6,218
45・ 6	(+)2,713	373,417	358,023	7.661	45,306	37,265	r281,989	316	756
7	(+)3,763	375,448	363,808	7.673	45,222	33,759	271,048	280	648
8	(+)4,588	376,849	361,862	7.682	44,481	32,005	261,609	277	651
9	(-)1,228	44,299

注) ※印は年度数値

濟 指 標

Statistics

百貨店 売上高	鉱工業 生産指数 (総合)	建 築 着 工		賃金指数	雇用指数	消費者 物価指数 (水戸・総 合・平均)	勞 働 市 場			年 月
		工 事 費 予 定 額	床 面 積				新規求職 人	新規求人 人	失業保險被 保險者總数 人	
百万円		千円	m ²							昭和35年
—	66.9	11,169,680	910,191	66.1	68.4	—	—	—	—	
2,975	84.7	12,669,633	10,036,549	70.5	86.2	—	40,616	64,919	191,435	36
3,354	84.4	16,089,121	1,149,383	74.9	100.0	—	46,273	46,079	198,261	37
3,770	92.3	20,244,396	1,297,261	83.1	103.6	88.7	43,615	51,423	203,670	38
4,341	97.0	22,550,772	1,419,231	90.1	105.9	91.5	43,724	55,018	223,904	39
4,799	100.0	27,632,474	1,581,326	100.0	100.0	100.0	42,433	42,684	224,096	40
5,472	110.8	31,318,999	1,746,158	113.3	93.5	104.4	41,509	54,048	230,225	41
7,427	135.8	49,094,168	2,522,788	130.3	94.2	107.9	41,518	70,569	241,722	42
8,686	149.4	78,198,065	3,389,074	154.6	103.6	114.9	40,173	68,369	254,759	43
11,396	175.9	177.6	109.1	122.3	41,301	83,774	280,482	44
993	193.3	322.6	141.8	128.8	3,173	6,638	294,023	45・ 6
1,209	200.4	237.0	142.8	128.6	3,864	6,890	290,349	7
989	191.0	171.3	142.0	130.2	3,481	6,419	289,955	8
793	134.9	3,490	8,535	290,430	9

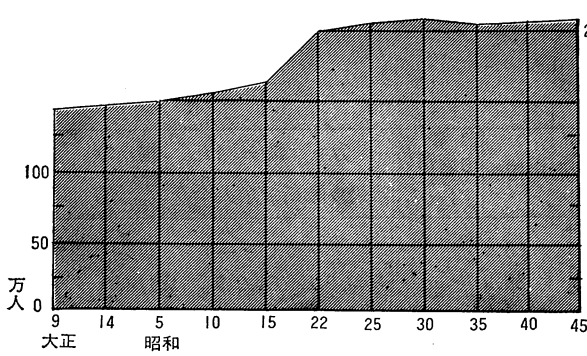
国民総生産		百貨店 売上高	鉱工業 生産指数 (総合)	建 築 着 工		賃金指数 (名目・ 製造業)	雇用指数 (常用・ 製造業)	消費者 物価指数 (東京区 部)	失業保險 被保險者 總数	年 月
名 目	実 質			工 事 費 予 定 額	床 面 積					
億円	億円	億円		千万円	千m ²				千人	昭和35年
162,027	203,483	4,075	58.0	6,741	5,122	61.8	74.3	74.0	12,385	
198,528	232,751	5,006	69.2	10,764	6,406	68.9	83.5	77.9	13,872	36
216,595	246,095	5,818	74.7	11,518	6,387	75.4	89.5	83.0	15,264	37
255,759	277,636	6,788	83.2	13,549	7,236	83.2	93.1	89.6	16,237	38
295,305	306,436	7,701	96.3	18,835	8,555	92.0	97.8	93.3	17,349	39
326,504	322,945	8,602	100.0	18,798	8,525	100.0	100.0	100.0	18,035	40
381,179	359,901	9,563	113.1	20,535	9,145	111.6	100.4	104.8	18,614	41
447,668	406,685	11,047	134.8	27,735	11,450	126.7	103.9	109.1	19,337	42
527,803	462,987	12,839	158.3	35,741	13,373	146.6	108.2	115.2	20,064	43
...	...	15,142	185.9	168.9	112.0	121.6	...	44
...	...	r1,295	r222.9	241.3	117.0	127.9	...	45・ 6
...	...	1,891	223.0	302.0	p116.8	128.4	...	7
...	..	1,282	p217.0	178.9	p116.0	129.0	...	8
...	p131.9	...	9

※は年度数值

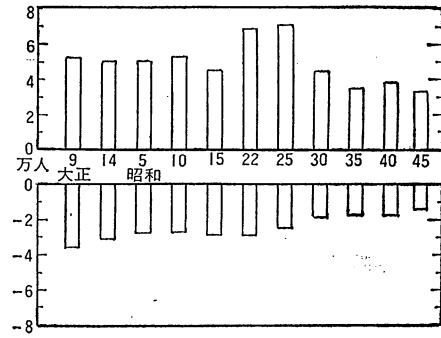
3 人 口

1 人 口 Population

図 総人口の推移



出生と死亡の推移



1-1 人口、世帯および人口移動

年 月 日	世帯数	人 口			人 口 移 動				
		総 数	男	女	増減数	自 然 動 態		社 会 動 態	
						出 生	死 亡	転 入	転 出
大正9年 10月 1日	世帯 269,860	人 1,350,400	662,128	688,272		52,291	35,960	—	
〃 14. 10. 1	276,120	1,409,092	693,837	715,255	(-)38,225	50,937	31,034	(-)58,128	
昭和5. 10. 1	279,895	1,487,097	734,059	753,038	(-)31,227	50,445	27,308	(-)54,564	
〃 10. 10. 1	286,471	1,548,991	766,423	782,568	(-)22,614	53,532	27,274	(-) 2,447	
〃 15. 10. 1	287,677	1,620,000	801,914	818,086	1,393	45,148	29,101	(-) 9,853	
〃 22. 10. 1	376,758	2,013,735	974,289	1,039,446	72,902	69,164	28,475	(-)32,213	
〃 25. 10. 1	375,861	2,039,418	933,694	1,045,724	(-) 8,034	60,325	24,784	(-)56,184	
〃 30. 10. 1	382,315	2,064,037	1,006,093	1,057,944	(-) 2,440	44,592	18,732	19,545	
〃 35. 10. 1	409,465	2,047,024	1,000,184	1,046,840	291	35,664	17,709	17,704	
〃 40. 10. 1	447,871	2,056,154	1,007,852	1,048,302	7,761	34,447	16,533	(-)10,153	
〃 44. 10. 1	486,782	2,118,391	1,042,441	1,075,950	5,066	2,752	1,119	11,926	8,493
〃 45. 10. 1	508,291	2,143,391	1,054,218	1,089,173	2,035	3,115	1,080	9,647	7,568

資料：県統計課 (注) 人口移動のうち①大正9年～昭和40年については各年の年間数値を示す。

②昭和44年10月、45年10月については44年9月、45年9月の月間数値を示す。

1-2 市町村別人口

(単位：人)

市町村名	年月				市町村名	年月			
	昭和35年 10月	40年10月	44年10月	45年10月		昭和35年 10月	40年10月	44年10月	45年10月
水戸市	139,389	154,983	170,556	173,784	水海道市	37,577	36,584	36,322	36,681
日立市	161,226	179,703	188,625	193,223	常陸太田市	38,541	36,974	36,145	35,468
土浦市	71,474	78,971	87,804	89,953	勝田市	43,286	52,625	62,652	66,753
古河市	42,474	50,202	54,206	54,173	高萩市	32,816	32,497	30,090	29,547
石岡市	34,758	36,789	38,682	38,510	北茨城市	60,507	55,334	49,837	48,320
下館市	51,257	51,717	53,892	53,861	笠間市	32,143	31,082	31,240	30,521
結城市	38,060	38,078	39,177	39,563	取手市	22,582	26,179	37,466	40,276
竜ヶ崎市	33,581	34,917	36,914	37,263	東茨城郡	134,192	128,687	128,382	127,920
那珂湊市	34,522	33,620	33,357	32,867	常澄村	9,850	9,393	8,947	9,094
下妻市	30,011	28,260	27,387	27,700					

年月 市町村名	年月				年月 市町村名	年月			
	昭和35年 10月	40年10月	44年10月	45年10月		昭和35年 10月	40年10月	44年10月	45年10月
茨城町	30,845	29,439	29,012	28,957	美浦村	9,178	8,411	8,242	8,066
小川町	15,762	15,447	17,077	16,648	阿見町	22,326	23,390	24,035	24,905
美野里町	14,680	14,381	14,952	14,872	牛久町	16,131	17,203	18,790	19,333
内原町	12,921	12,695	12,848	12,933	荃崎村	6,338	6,253	6,386	6,461
常北町	11,832	11,154	11,127	10,787	新利根村	9,489	8,943	8,598	8,620
桂村	8,785	7,938	7,291	7,223	河内村	13,065	12,158	11,551	11,718
御前山村	7,227	6,425	5,854	5,750	桜川村	8,900	8,178	7,831	7,882
大洗町	22,290	21,815	21,274	21,656	東村	14,121	13,280	12,664	12,852
西茨城郡	59,662	58,685	58,461	59,388	新治郡	83,382	79,312	78,216	80,437
友部町	19,007	19,714	20,390	20,462	出島村	18,260	16,861	16,256	16,581
岩間町	13,656	13,719	13,855	14,120	玉里村	5,233	5,080	5,107	5,445
七会村	4,029	3,469	3,122	3,159	八郷町	30,670	28,741	26,600	27,437
岩瀬町	22,970	21,783	21,094	21,647	千代田村	11,620	11,451	12,890	13,679
那珂郡	105,533	103,571	104,856	103,955	新治村	8,400	8,240	8,329	8,353
東海村	13,978	16,565	18,571	18,958	桜村	9,199	8,939	9,034	8,942
那珂町	30,556	30,006	30,730	31,208	筑波郡	89,642	84,937	84,331	83,778
瓜連町	6,988	6,832	6,889	7,043	谷田部町	20,570	20,093	20,171	20,134
大宮町	24,594	23,635	24,416	23,303	伊奈村	12,010	11,241	11,011	11,170
山方町	13,016	11,805	10,855	10,558	谷和原村	10,746	10,062	10,263	9,901
美和村	8,364	7,515	7,113	6,590	豊里町	11,165	10,497	10,203	10,407
緒川村	8,037	7,213	6,282	6,295	筑波町	23,817	22,091	21,861	21,308
久慈郡	74,230	67,875	63,350	60,624	大穂町	11,334	10,953	10,822	10,858
金砂郷村	14,748	13,554	12,837	12,237	真壁郡	76,660	73,394	72,804	71,926
水府村	11,636	10,580	9,597	9,314	関城町	14,979	14,368	14,186	14,225
水里美村	7,668	6,980	6,370	6,120	明野町	17,513	16,682	15,999	16,085
大子町	40,178	36,761	34,546	32,953	真壁町	21,959	20,809	20,786	20,310
多賀郡	11,006	10,346	10,167	9,646	大和村	8,064	7,522	7,390	7,205
十王町	11,006	10,346	10,167	9,646	協和町	14,145	14,016	14,443	14,101
鹿島郡	118,457	113,010	121,213	129,160	結城郡	52,189	49,080	48,136	48,229
旭村	11,747	10,759	10,385	10,151	八千代村	24,438	22,687	22,169	21,946
鉾田町	28,657	26,939	27,662	26,161	千代川村	8,447	7,912	7,831	7,813
大洋村	10,212	9,331	8,778	8,802	石下町	19,304	18,481	18,136	18,470
大野村	10,679	9,779	9,709	9,524	猿島郡	119,892	117,272	121,531	122,489
鹿島町	16,132	16,305	21,163	25,166	総和町	20,703	21,023	23,160	24,997
神栖町	16,326	15,820	18,800	22,165	五霞村	9,157	8,668	8,631	8,382
波崎町	24,704	24,077	24,716	27,191	三和町	19,269	18,380	18,518	18,483
行方郡	72,016	68,169	66,816	67,586	猿島町	14,810	14,053	13,603	13,641
麻生町	20,182	18,852	17,954	18,063	岩井町	33,366	33,459	35,233	35,212
牛堀町	6,796	6,466	6,389	6,569	境町	22,587	21,689	22,386	21,774
潮来町	17,671	17,111	17,426	18,432	北相馬郡	33,334	33,219	35,877	36,867
北浦村	12,401	11,611	11,048	10,951	守谷町	11,449	11,475	11,852	12,300
玉造町	14,966	14,129	13,999	13,571	藤代町	12,606	13,002	15,594	16,308
稲敷郡	112,565	110,082	109,899	111,923	利根町	9,279	8,742	8,431	8,259
江戸崎町	13,017	12,266	11,802	12,086					

注) 各年とも国勢調査結果。ただし44年10月については推計人口。

資料：県統計課

2-1 金 融 機 関 預 金

年 月	總 額				銀 行		相 互 銀 行		信 用 金 庫	
	預 金	対前年 同月比	貸 出 金	対前年 同月比	預 金	貸 出 金	預 金	貸 出 金	預 金	貸 出 金
昭和41年12月末	41,967	—	27,277	—	21,490	12,289	3,340	2,431	2,952	2,161
42 //	52,846	124.2	26,731	124.1	26,386	14,582	4,077	2,931	3,727	2,812
43 //	63,887	—	31,407	—	30,816	16,607	5,016	3,609	4,407	3,243
44 //	77,765	121.7	38,346	122.1	36,589	20,496	6,518	4,553	5,496	4,082
45・7月	p81,195	p123.7	43,636	p124.6	39,756	22,992	6,937	5,264	5,961	4,484
8	p73,018	p110.3	p39,049	p112.8	39,783	23,588	7,120	5,415	6,084	4,582
9	p75,427	p108.1	p39,074	p109.7	41,371	23,762	7,577	5,564	6,203	4,724
10	p76,436	p98.0	p39,993	p109.8	40,931	23,778	7,372	5,698	6,273	4,824

資料；大蔵省関東財務局水戸財務部

図1 金融機関預金残高（茨城）

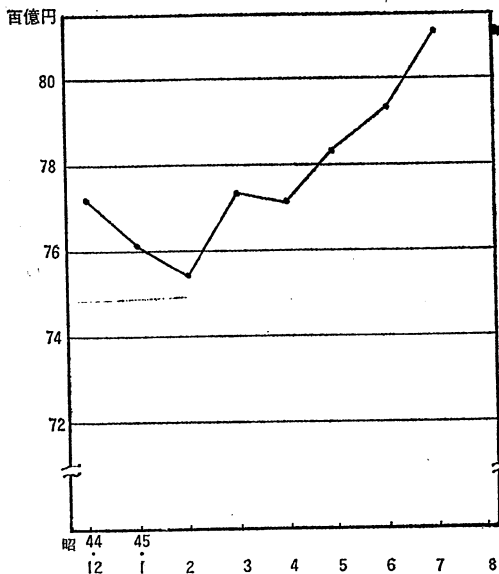
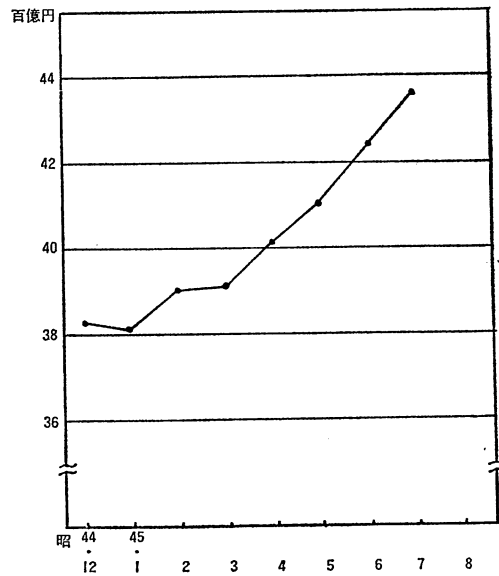


図2 金融機関貸出金残高（茨城）



・ 貸 出 残 高 (茨 城)

(単位 : 千万円)

信 用 組 合		農 協		農林中金・商工中金		労 働 金 庫		郵便局	年 月
預 金	貸 出 金	預 金	貸 出 金	預 金	貸 出 金	預 金	貸 出 金	預 金	
1,991	1,749	4,232	1,525	1,805	936	286	178	5,982	昭和41年12月末
2,644	2,210	5,448	1,829	2,242	1,066	369	229	7,360	42 //
3,212	2,614	7,288	2,563	3,112	1,190	455	277	9,131	43 //
3,954	2,993	9,211	4,463	4,169	1,340	564	416	11,262	44 //
4,089	3,508	p8,861	p5,401	2,361	p1,455	638	529	12,590	45・7月
4,132	3,611	2,543	1,302	636	551	12,720	8
4,432	3,743	2,403	1,400	659	556	12,782	9
4,358	3,778	3,928	1,347	673	568	12,901	10

注) 農協には信農連、信漁連、漁協を含む。

2-2 業種別貸出先数および貸出残高 (茨城) (単位:百万円)

業 種 別	40年3月		41年3月		42年3月		43年3月		44年3月	
	貸 出 先 数	金 額	貸 出 先 数	金 額	貸 出 先 数	金 額	貸 出 先 数	金 額	貸 出 先 数	金 額
合 計	36,375	114,351	39,406	120,393	44,200	126,230	49,636	146,887	58,968	173,862
製 造 業	5,413	56,255	5,725	57,764	5,736	54,176	5,960	60,322	6,319	68,908
食 料 品	1,583	7,557	1,549	8,153	1,489	9,218	1,448	10,407	1,446	11,364
織 維 品	576	4,225	575	4,346	595	3,621	631	4,148	687	4,396
木 材 ・ 木 製 品	1,007	3,271	1,080	3,062	1,099	3,692	1,111	4,626	1,106	5,221
化 学 工 業	88	5,956	89	6,566	80	5,842	77	6,167	91	7,548
非 鉄 金 属	19	3,792	35	4,237	20	4,372	35	4,629	32	5,607
電 気 機 械 器 具	332	13,196	396	12,939	370	9,251	10,196	10,196	453	11,913
輸 送 用 機 械 器 具	53	4,327	69	4,739	65	4,943	5,727	5,727	75	6,100
農 業	9,527	2,213	9,800	2,228	11,027	2,956	12,641	3,557	14,885	4,745
林 業	40	113	35	82	44	87	44	131	63	166
漁 業 ・ 水 産 養 殖 業	176	1,475	176	1,582	191	1,373	215	1,753	219	1,987
鉱 業	142	3,622	132	3,831	135	2,873	122	3,047	144	3,495
建 設 業	927	3,765	1,179	3,676	1,323	4,344	1,714	5,561	1,993	7,038
卸 売 小 売 業	11,029	27,278	11,406	30,130	12,557	36,939	12,886	44,069	13,075	51,429
卸 売	2,110	15,228	2,172	17,094	2,267	20,536	2,169	22,906	2,295	25,615
小 売	8,919	12,050	9,234	13,036	10,290	16,403	10,717	21,163	10,780	25,814
金 融 ・ 保 険 業	47	2,143	48	1,544	46	1,303	51	1,118	57	1,419
不 動 産 業	105	4,538	134	5,684	150	5,496	210	6,859	262	9,152
運 輸 通 信 業	420	3,007	504	2,537	497	2,229	555	2,366	591	3,183
電 気 ・ ガ ス ・ 水 道 業	4	159	6	235	6	158	8	314	15	286
サ ー ビ ス 業	2,240	6,620	2,518	7,008	2,899	8,199	3,466	9,960	4,078	11,722
そ の 他	6,305	3,163	7,743	4,092	9,589	6,097	11,764	7,830	17,267	10,332

資料 : 日本銀行統計局

7 農 業

3 農 業 Agriculture

3-1 農産物の平均販売価格(茨城)

(単位:円)

年 月	うるち米 (玄米60kg)	小 麦 (玄麦3等 程度60kg)	ばれいしよ (男爵10kg)	だいこん (葉付10kg)	生 乳 (飲用10kg)	鶏 卵 (10kg)	肉 豚 (生体10kg)	乳用牛 (めす・生 後4月~6 月ホルス タイン純 種)
昭和40年12月	6,460	2,042	233	196	385	1,935	2,199	45,615
41 //	6,350	2,124	266	207	407	1,896	1,910	57,777
42 //	7,264	2,067	240	159	...	2,189	2,324	62,875
43 //	7,667	2,393	...	95	491	2,002	2,929	71,067
44 //	8,467	130	500	2,341	2,469	66,330
45. 8	7,933	3,481	498	1,552	2,852	59,667
9	8,200	3,481	496	1,606	2,539	59,667
10	8,300	3,481	...	429	498	2,119	2,352	61,333
11	8,233	312	504	1,964	2,527	63,000

資料：関東農政局茨城統計調査事務所 (注) 昭和43年以降の価格は、それぞれの代表生産地における価格である。

3-2 農 業 用 品 の 購 入 価 格 (茨城)

(単位:円)

年 日	乳用牛 (成畜めす ホルスタ イン純種)	子 豚 (めす・生 後50~70 日中ヨー クシャー)	硫 安 (N21%か ます40kg)	過りん酸 灰 (かます40 kg可溶性 りん酸17 %)	複合肥料 (N8%.P 8%.K5 %30kg)	配合飼料 (成鶏用20 kg組たん 白15%以 上)	配合飼料 (乳牛用30 kg粗たん 白13%以 上)	パラチ オン剤 (46.6又は 46.7%乳 剤 単位 100cc)
昭和40年12月	152,701	5,446	800	561	807	797	1,028	191
41 //	171,375	3,904	801	572	710	802	1,024	188
42 //	216,625	5,927	774	582	612	797	1,015	173
43 //	246,250	8,600	748	582	666	778	1,078	190
44 //	201,250	7,750	728	576	656	794	1,055	200
45. 8	201,250	7,875	731	608	620	914	706	200
9	202,500	7,625	726	623	620	926	714	200
10	202,500	7,050	726	623	623	945	746	200
11	197,500	6,500	729	650	628	945	746	200

資料：関東農政局茨城統計調査事務所 (注) 昭和43年以降の価格は農業地域代表市町村の価格である。
昭和43年以後子豚の価格はランドレース (F1ランドレース系) 60~90日程度の価格である。

4 鉱工業 Mining & Manufacturing

4-1 茨城県鉱工業生産指数 (基本指数)

(昭和40年=100)

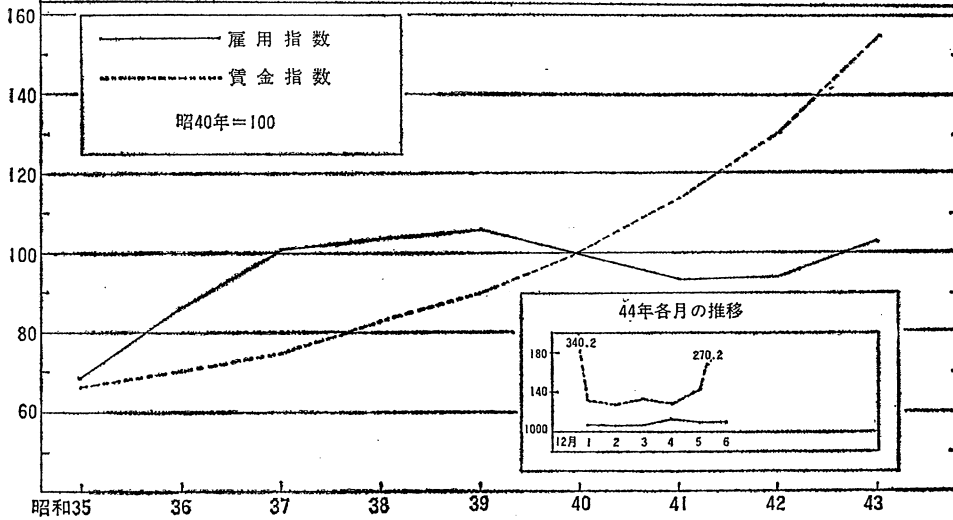
項目	産業総合	公益事業	鉱工業	鉱業				製造工業	鉄鋼業	非鉄金属工業	金属製品工業
				石炭・亜炭	炭鉱	金属鉱業	非金属鉱業				
品目数	129	2	127	10	1	5	4	117	4	7	5
ウェイト	100.0	0.39	99.61	5.48	56.59	28.34	15.07	94.52	1.72	7.31	3.27
昭和35年	67.0	92.6	66.8	87.2	91.0	87.6	54.9	64.9	62.6	52.5	—
36	84.7	89.7	84.6	89.8	92.6	90.9	66.0	84.2	80.4	73.6	—
37	84.5	90.0	84.4	90.3	90.2	98.6	68.6	83.9	80.4	56.6	—
38	92.3	77.9	91.6	92.2	92.6	99.8	76.7	91.5	83.8	72.8	—
39	97.0	95.3	97.1	99.0	95.6	100.4	111.2	92.5	106.8	101.3	—
40	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
41	110.8	266.9	110.2	101.2	107.0	104.2	73.7	110.7	117.1	107.7	157.6
42	135.8	617.7	133.9	98.9	99.5	100.6	93.8	135.9	133.9	130.5	173.2
43	149.4	427.8	147.5	92.1	86.7	96.7	103.6	150.8	138.2	134.3	130.7
44	175.9	585.4	174.3	97.0	89.1	98.9	123.3	178.8	174.7	154.8	211.5
45.5	183.4	134.5	183.6	93.3	86.0	91.0	125.0	188.8	235.1	145.5	175.1
6	193.3	161.6	193.5	98.4	91.2	93.8	133.8	199.0	271.3	150.5	211.3
7	200.4	682.9	198.5	96.4	89.6	95.1	124.2	204.4	254.2	151.7	181.5
8	191.0	714.9	188.9	91.0	76.8	94.3	138.3	194.6	244.8	146.0	207.4

項目	製 造 工 業											
	機 械 工 業				窯 業 土 石 製品工業	化学工業	石油石炭 製品工業	皮革工業	パルプ・ 紙・紙加 工品工業	繊維工業	食料品	煙 草
	一般機械	電気機械	輸送機械	精密機械								
品目数	15	24	5	5	4	11	1	2	3	12	9	1
ウェイト	8.48	38.91	2.04	2.69	4.69	2.72	0.18	0.48	1.26	10.55	3.89	1.83
昭和35年	51.0	71.9	26.0	9.3	85.1	93.3	13.0	37.5	51.2	77.6	75.1	...
36	79.4	103.4	50.4	14.5	85.4	99.8	12.5	44.2	61.7	110.4	79.6	...
37	74.3	101.9	56.0	60.7	84.1	84.7	12.2	64.6	76.6	128.2	89.4	...
38	86.3	104.4	69.5	99.0	85.7	88.0	100.4	82.7	83.0	137.1	92.2	113.7
39	101.0	102.2	80.7	120.9	91.8	92.8	97.3	93.1	99.4	110.1	96.4	92.4
40	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
41	105.7	110.3	115.2	108.0	102.1	116.5	93.5	85.8	127.5	98.3	106.9	112.0
42	132.3	137.5	147.4	106.0	111.0	121.6	74.7	64.7	144.3	106.3	131.1	191.6
43	149.4	176.8	193.6	78.2	124.8	135.2	91.1	71.9	160.8	139.6	149.1	222.8
44	205.8	188.2	231.1	78.0	126.5	198.1	81.8	74.3	188.7	181.7	191.2	...
45.5	243.9	195.8	273.6	82.7	115.0	244.2	121.5	76.3	205.4	190.7	201.1	...
6	290.3	200.1	291.8	94.5	124.6	260.1	126.4	80.2	215.1	157.5	214.2	...
7	348.2	195.8	282.0	89.3	123.9	351.5	128.2	74.3	225.0	172.2	212.4	...
8	219.7	196.8	215.7	89.7	136.4	386.0	136.6	89.7	212.9	211.4	194.8	...

資料：県統計課

5 労働 Labor

図 産業別雇用・賃金指数の推移 (茨城) (昭和40年=100)



5-2 産業別雇用

年 月	総 合				鉱 業		建 設 業		製 造 業	
	雇 用	対前月(年)比較	賃 金	対前月(年)比較	雇 用	賃 金	雇 用	賃 金	雇 用	賃 金
基準年次実数	155,584	—	32,542	—	12,196	37,797	6,047	30,625	103,093	29,999
昭和35年	68.4	—	66.1	—	93.0	60.4	88.9	53.7	60.4	68.2
36	86.2	17.8	70.5	4.4	92.3	66.8	114.7	62.9	82.0	74.6
37	100.6	13.4	74.9	4.4	93.3	71.5	114.6	66.5	101.6	77.3
38	103.6	3.0	83.1	8.2	92.2	83.4	117.9	77.0	102.9	85.4
39	105.9	2.3	90.1	7.0	96.8	91.3	112.9	91.5	105.7	90.2
40	100.0	(-5.9)	100.0	9.9	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
41	93.5	(-6.5)	113.3	13.3	105.8	107.3	84.3	98.9	93.9	116.2
42	94.2	0.7	130.3	17.0	97.2	119.4	71.7	123.1	98.7	136.1
43	103.6	9.4	154.7	24.4	87.2	139.0	78.2	145.0	112.9	164.0
44	109.1	5.5	177.6	22.9	81.8	167.7	79.1	164.9	120.7	190.0
45.5	141.3	(-1.6)	157.2	6.0	39.7	157.2	142.5	166.6	148.3	165.4
6	141.8	0.5	322.6	165.4	39.8	265.2	148.4	308.1	148.5	348.7
7	142.8	1.0	237.0	(-185.6)	40.3	208.9	147.9	305.8	149.9	247.2
8	142.0	(-0.8)	171.3	(-65.7)

資料：県統計課

注) 規模30人以上の事業所

5-1 労働時間 (単位：1人1カ月当たり)

年 月	全産業	前月(年) 比較	鉱業	建設業	製造業	卸売 小売業	金融・ 保険業	運輸・ 通信業	電気・ ガス・ 水道業	所定内労働時間	
										全産業	製造業
昭和35年	191.5	...	185.6	188.9	195.6	190.9	175.6	186.9	160.4	167.2	166.9
36	190.0	(-)1.5	184.9	182.1	192.7	189.7	180.4	190.2	159.2	166.1	164.5
37
38
39	193.5	...	199.8	181.2	191.3	192.6	180.1	197.8	178.5	174.9	172.8
40	186.4	(-)7.1	199.2	174.2	180.7	197.4	166.2	192.1	174.0	172.0	168.0
41	187.2	0.8	201.0	165.7	175.4	195.4	151.8	190.3	166.6	170.7	164.3
42	191.7	4.5	193.8	161.1	196.3	191.6	169.6	194.2	176.0	171.1	174.6
43	194.1	2.4	195.8	172.4	196.5	190.2	165.4	197.0	171.1	171.2	172.5
44	191.3	(-)2.8	195.6	158.8	192.8	198.6	163.4	192.7	168.6	167.8	168.3
45.5	178.7	(-)17.7	179.9	170.3	177.6	183.5	171.0	185.5	166.3	159.9	158.3
6	200.3	21.6	203.0	207.4	202.1	196.6	181.1	198.2	182.8	179.1	179.5
7	194.5	(-)5.8	204.1	208.2	194.2	191.0	178.4	198.6	191.4	174.3	173.2
8

資料：県統計課 注) 規模30人以上の事業所

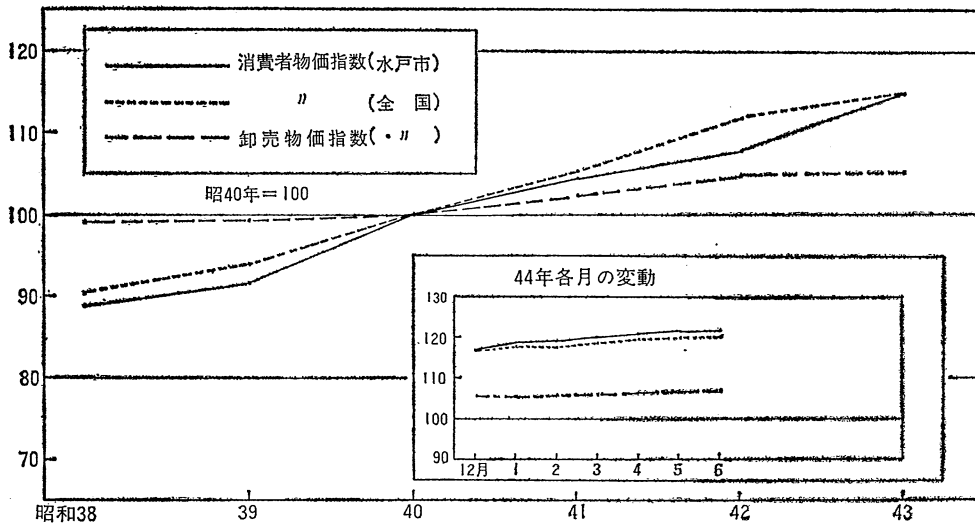
・賃金指数 (茨城) (昭和40年=100)

卸売・小売業		金融・保険業		運輸・通信業		電気・ガス・水道業		年 月
雇 用	賃 金	雇 用	賃 金	雇 用	賃 金	雇 用	賃 金	
7,426	29,061	5,112	41,419	19,012	40,528	1,943	55,638	基準年次実数
96.2	53.9	74.8	57.1	75.7	60.3	92.9	62.4	昭和35年
109.7	57.0	84.0	61.1	89.5	66.7	88.7	67.6	36
111.5	60.7	86.9	72.4	99.8	77.4	82.8	72.1	37
110.0	59.9	92.9	79.4	117.3	83.5	76.4	72.1	38
108.7	87.9	103.4	89.5	116.6	90.3	83.5	88.9	39
100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	40
87.4	99.5	90.7	105.6	82.1	111.6	115.5	115.2	41
92.6	106.9	89.1	111.1	76.0	127.9	122.3	130.2	42
102.7	128.6	87.9	142.4	76.4	145.7	122.7	140.5	43
122.0	153.0	85.5	163.0	75.1	168.5	120.8	160.8	44
217.2	152.6	189.8	125.6	131.0	150.6	133.8	127.9	45.5
220.0	211.2	192.2	386.8	130.5	260.3	133.1	416.4	6
218.3	268.8	190.1	171.2	130.5	225.1	135.2	136.6	7
...	8

11 物 価

6 物 価 Price

図 消費者物価指数と卸売物価指数の変化



6-2 消 費 者

1. 水 戸 市

(昭和40年=100)

費 目 品 目 数 ウ エ イ ト	総 合		食 料 146 4,074	住 居 45 1,161	光 熱 8 502	被 服 62 1,297	雑 費 101 2,966
	362 10,000	対前月(年)比較					
昭和38年平均	88.7	—	85.4	92.9	99.3	88.3	90.7
39	91.5	(+)2.8	89.2	93.4	99.3	91.1	92.8
40	100.0	(+)8.5	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
41	104.4	(+)4.4	103.2	105.3	97.2	103.8	107.1
42	107.9	(+)3.5	107.1	109.2	98.4	105.3	111.3
43	114.9	(+)7.0	115.3	116.4	99.4	110.7	118.3
44	122.3	(+)7.4	124.1	125.8	101.1	117.8	124.2
45.7	128.6	(-)0.2	128.4	139.9	102.5	122.6	131.4
8	130.2	(+)1.6	132.0	140.0	103.0	122.3	131.8
9	134.9	(+)4.7	142.0	140.3	103.0	127.1	131.8
10	138.3	(+)3.4	145.9	141.2	105.5	134.3	134.1

資料：県統計課

6-1 費目別物価上昇寄与率（水戸市）

区 分	40年	41	42	43	44	45.6	45.7	
総 合	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
食 料	51.8	28.9	45.7	47.4	48.2	16.1	18.9	
その 他の 食料	主 食	13.2	8.6	7.1	12.9	9.1	1.0	1.7
	生 鮮 魚 介	8.1	1.2	8.7	10.6	8.3	1.5	1.9
	肉 類	0.5	1.2	4.2	4.7	3.3	1.9	2.8
	野 菜	13.5	—	11.4	—	1.5	2.5	2.5
	果 物	2.0	8.7	—	0.6	2.5	0.6	0.8
住 居	9.0	13.6	12.7	11.9	14.7	7.2	11.2	
家 賃 地 代	5.7	7.7	3.4	2.5	1.8	2.3	2.0	
設 備 修 繕	0.4	4.0	8.3	8.2	10.0	1.0	2.0	
光 熱	0.4	—	1.1	1.0	1.2	—	—	
被 服	13.6	10.9	5.5	10.3	12.4	16.5	8.8	
雑 費	25.2	46.6	35.0	29.4	23.5	60.2	61.1	
交 通 通 信	1.4	15.1	6.2	2.4	1.3	1.4	1.7	
教 育	3.8	10.7	11.2	10.3	4.8	—	0.6	
教 養 娯 楽	14.2	19.3	15.4	8.4	11.9	7.7	21.1	

資料：県統計課

注) 昭和45年6、7月分は昭和38~41年を基準として補正したものである。

物 価 指 数

2. 全 国

消 費 者 物 価 指 数 (昭40年=100)			卸 売 物 価 指 数 (昭40年=100)		戦 前 基 準 指 数 (昭9~11年平均=1.0)		年 月
全 国	対前月(年)比較	人口5万人 以上の都市	消費者物価 指 数 (東 京)	消費者物価 指 数 (東京区部)	卸売物価 指 数	卸売物価 指 数	
							...
...	...	77.9	77.9	98.9	345.0	355.7	36
...	...	83.2	83.0	97.3	368.2	349.7	37
90.3	...	89.5	89.6	99.0	397.3	356.0	38
93.8	(+) 3.5	92.9	93.3	99.2	413.3	356.7	39
100.0	(+) 6.2	100.0	100.0	100.0	443.2	359.4	40
105.1	(+) 5.1	105.1	104.8	102.4	464.4	368.1	41
109.2	(+) 4.2	109.2	109.1	104.3	483.5	374.7	42
115.0	(+) 5.8	115.0	115.2	105.1	510.5	377.9	43
128.3	(-) 0.7	r128.6	r127.9	111.2	r566.8	399.7	45.6
r129.2	(+) 0.9	129.5	128.4	r111.2	r569.0	p399.7	7
129.8	(+) 0.6	130.1	r129.0	111.4	571.7	400.4	8
...	p131.9	111.5	584.5	400.7	9

資料：日本銀行「経済統計月報」

7 家 計 主 要 指 標

Key Statistics on the Family

家 計 主 要 指 標

項 目	勤 勞 者 世 帯							全 世 帯		消費者	
	実収入	(1) 可処分所得	消費支出	(2) 黒 字	(3) 平均消費性向	(4) 実収入指数	(4) 実質消費支出指数	消費支出	(5) エンゲル係数	物 価 指 数	
全 国											
昭和38年平均	円 53,298	49,076	41,105	7,971	83.8	90.6	92.2	40,246	38.7	90.3	(1) 実収入 - 非消費支出
39	59,704	54,873	45,511	9,362	82.9	97.8	98.3	44,481	38.1	93.8	(2) 可処分所得 - 消費支出
40	65,141	59,557	49,335	10,222	82.8	100.0	100.0	48,396	38.1	100.0	(3) 消費支出 ÷ 可処分所得
41	71,347	65,073	53,599	11,474	82.4	104.2	103.3	52,516	37.3	105.1	(4) 当該項目 (40 年=100) ÷ 消 費者物価指数
42	78,725	72,039	58,763	13,276	81.6	110.6	109.0	57,071	36.8	109.3	(5) 食料費 ÷ 消費支出
43	87,599	80,416	65,477	14,939	81.4	116.9	115.3	63,607	35.5	115.1	
45. 4	88,607	81,178	77,974	3,204	196.	104.8	121.8	76,867	33.3	129.8	
5	89,800	81,670	76,180	5,490	93.3	106.9	119.7	74,602	35.9	129.0	
6	146,307	134,348	82,306	52,040	61.6	175.1	130.0	77,819	34.1	128.3	
7	130,098	119,427	87,285	32,142	73.1	154.6	136.9	81,894	33.3	129.2	
水 戸 市											
昭和38年平均	円 67,692	61,266	44,260	17,006	72.2	108.0	92.5	40,899	34.2	88.7	
39	64,909	59,002	48,315	10,687	81.8	100.4	97.9	45,445	35.9	91.5	
40	70,600	63,966	53,892	10,074	84.2	100.0	100.0	49,643	35.5	100.0	
41	79,293	71,153	57,745	13,408	81.1	107.5	102.5	52,952	35.5	104.4	
42	86,917	78,824	62,943	15,881	79.8	113.7	107.8	59,567	34.2	107.9	
43	114.9	
45. 4	93,006	82,681	86,296	(-3,615)	104.4	100.4	122.1	88,842	28.6	131.2	
5	84,641	77,785	76,453	1,332	98.3	91.9	108.7	79,271	34.2	130.4	
6	144,855	133,613	98,260	35,353	73.5	159.3	141.5	91,034	27.8	128.8	
7	109,969	102,562	85,238	17,324	83.1	121.0	122.9	84,847	29.9	128.6	

資料：総理府統計局

要 指 標

Income and Expenditure Survey

1 カ月 1 世帯当たりの収入と支出 (勤労者世帯)

収 入

水戸市

年 月	集計世帯数	世帯人員数	世帯主の年齢	収入(支出)	実収入					
				総 額	勤め先収入	事業・内職収入	他 の実収入	実収入以外の収入	前月から繰入金	
昭和38年平均	61	4.24	42.6	93,967	67,692	55,464	1,607	10,621	10,101	16,174
39	57	4.26	42.5	96,413	64,909	59,058	1,069	4,782	15,521	15,983
40	57	3.99	42.2	108,204	70,600	64,756	1,921	3,923	19,483	18,121
41	54	3.99	41.7	115,607	79,293	74,295	1,112	3,886	14,704	21,610
42	54	3.88	42.0	125,294	86,917	80,407	1,804	4,646	18,087	20,289
43	58	4.05	41.5	133,352	91,826	87,176	1,284	3,366	16,143	25,382
45. 4	75	3.93	41.0	147,431	93,006	83,379	2,958	6,669	25,545	28,880
5	74	3.97	40.4	130,391	84,641	75,816	3,537	5,288	18,137	27,613
6	74	3.91	40.8	205,870	144,855	137,040	3,699	4,116	30,915	30,099
7	74	4.00	40.6	163,969	109,966	99,858	4,408	5,699	21,884	32,120

支 出

年 月	実支出	消 費 支 出					非消費支出	実支出以外の支出	繰越金	現物総額	備 考
		食料費	住居費	光熱費	被服費	雑費					
昭和38年平均	50,686	14,488	5,172	1,928	5,428	17,244	6,426	26,039	17,242	3,418	① (収入)の世帯数人員数、年齢は(支出)にも該当 ② 消費支出の計は<主要指標>の計と一致 ③ (支出)における支出総額は上記(収入総額)の項と同じ。
39	54,222	15,487	6,158	2,147	5,936	18,587	5,907	25,086	17,105	3,710	
40	60,526	17,182	6,698	2,414	6,725	20,873	6,634	28,330	19,348	4,269	
41	65,885	18,308	5,629	2,650	6,677	24,481	8,140	28,492	21,230	3,879	
42	71,036	16,637	6,411	2,799	7,150	26,947	8,092	32,615	21,643	4,277	
43	76,668	21,503	7,712	2,642	7,624	28,804	8,383	31,295	25,389	4,906	
45. 4	96,621	24,579	7,666	3,087	8,769	42,195	10,325	22,389	28,427	4,278	
5	76,453	25,862	6,486	2,565	7,639	33,900	6,856	20,004	27,078	3,343	
6	109,502	25,035	9,640	2,391	13,239	47,955	11,242	65,046	31,322	4,159	
7	92,645	25,028	9,575	2,051	8,880	39,704	7,407	36,399	34,925	6,338	

新たなる年を迎えて

回顧と展望

行政管理庁行政管理局統計主幹 杉 浦 滋

皆様、明けましておめでとうございます。

昨年10月1日に第11回国勢調査が実施された。それはいろいろな意味で画期的な意味をもつたと云わなければならない。

第一に、国勢調査は戦後わが国の新しい統計制度のもとに指定統計第一号として指定されたものがあるが、今回戦後初めて沖縄を含めた日本全地域に亘つて統一的に調査が行なわれたということである。これは昭和47年の祖国復帰を前にして、各般の沖縄開発対策をわが国全体の行政施策の中に明確且つ適切に位置づける上に不可欠の基本的な資料を提供するものとして重要な意味をもつものである。また、今度の調査は、わが国の人口問題、都市対策などへの接近を積極的に意図して野心的ともいえるいくつかの調査項目を含んで実施されたのであるが果たしてどのような効果がおさめ得られるか極めて関心がもたれるところである。

さらに、もう一つの点は、たまたま今度の調査実施に際してマスコミにも大きく上げられた幾つかの指摘が、わが国の統計調査一般を通じての問題点としてわれわれに早速な回答を求めているということであろう。

その一つとして挙げなければならないのは、いわゆるプライバシー問題である。プライバシーとは何か、その権利侵害の条件は何か、というような点についてこの法律上の解釈はまだ定着していないと思われるが、少なくとも統計調査の上ではこれをどう取扱うべきかについては、できるだけ速やかにこれを明確にする必要があると考えられる。統計調査が、とくに指定統計として実施される場合、統計法によつて調査対象に対して申告の義務を課しているといつても、調査を円滑且つ効果的に行なうためには被調査者側の国民一般からの十分な協力が得られることが何よりも必要なことはいままでもない。その観点からすれば、プライバシーの権利意識が強まつていく一般の傾向に配慮しながら、統計調査の設計面、実地調査の方法面について十分な工夫が必要となろう。この場合でも、統計調査の意味とその活用について（秘密保護の担保を含め）一般の理解を得られるように、最善の努力をしなければならないのはもちろんである。

45年度の全国統計大会が、去年7月東京で開催されたが、そこで提示された政府への要請はまことに中央でこれを受けて立つべき内容を含んでいると思う。中央への反省を強く促す意味で云われたものと私は解釈しているものの、美濃部都知事の「指定統計返上論」に会場から

盛んな拍手が送られたのは意外であつたが、宣言なり要望なりに謳われていることは、要するに政府統計の整理（重複排除と整備）と、調査員を含めた地方実施体制の強化ということである。各都道府県や市町村において、それぞれの行政需要に対応する上に独自の統計調査が必要であるし、また必要の加わつていくことは確かであることは十分理解されることであつて、むしろ、平均的にいつていまは過少ともいえると考えられるのであるが、一国における基幹的な統計は作成技術的、また能率的、あるいは合理性をそれぞれの点からいつて政府統計が主体となるべきであり、またその実査面で地方側が広く活用されることは、地方統計と有機的に関連させる観点などから、矢張り望ましい制度であると思う。ただ、統計法施行後4半世紀に亘つて整備されてきた政府統計が、時代の推移に伴う社会経済の環境変化に対応する基礎的な行政情報として十分かどうか、逆に不急不用となっているものはないか、作成目的に照らし統廃合すべきものはないか、などについての反省が当面緊要であるということは、たしかである。従来とて、そういう反省はむしろ各省庁にあつてもあつたのであるが、その反省を具体的な形にして改善をはからなければならない時期が既に始まつたというべきであろう。昨年は、法人企業統計が指定統計として指定され、また指定統計である毎月勤労統計調査が、従来承認統計として実施されていたサービス産業を含むように拡大されたが、これは体系整備の上からかねて要請があつたもので、何れも承認統計を廃止して事務的に処理し易くしたい狙いもある訳である。しかし、果たしてこのような効果を十分挙げるためには実施面で具体的に工夫し努力していかなければなるまい。

政府としては、政府統計の再編整備の路線をできるだけ早期に具体的に打ち出したいと考え、行管を中心に関係各省の間で作業に着手しはじめている。それは地方側での実査面に大きく影響するというだけでなく、もともと国として、行政改革の趣旨をまつまでもなく、当然考慮しなければならないことがらであるからである。情報化時代といわれるこれからの行政を真に国民のためにする上に、統計がいよいよその重要度を増す以上、統計調査の実施について中央・地方がともに協力し合つて改善を図つていくのは当然過ぎるほど当然であるし、またその改善がいくら早くても早過ぎるということはないのである。

人口統計の利用方法について

厚生省人口問題研究所人口政策部長

上 田 正 夫

国勢調査は、人口静態統計を得るための最も本格的な、第一義的な調査であり、人口の大きさを知り、その種々な構造を知る上できわめて重要な調査である。また、人口の増加を左右する要因のうち、出生、死亡は婚姻・離婚・死産とともに、その届出にもとづいて調査され、月別と年次別に集計されている。さらに、転入・転出は住民基本台帳（住民登録法）にもとづいて昭和29年から総理府統計局によつて集計され、年報が刊行されている。

人口に関する統計は、以上が主要なものであるが、このほかに中央・地方の官公庁で作成される各種のものがある。

人口の大きさは、各種の施策を計画する上での最も基本的な数字として広く利用されるとともに、人口動態をはじめ、社会、経済、文化など各種の統計と対比して、その程度を比較する基礎人口として用いられる。また、時系列として、人口増加の程度を知るのに用いられるが、増加の要因はそれぞれ、時代の経済的、社会的諸条件によつて各種の影響を受けるから、人口増加は経済、社会の変動を最も集約的に表現しているものと考えられる。

人口の静態統計は、絶えず変動しつつある人口の瞬間の姿であり、各種の人口構造をとらえるものである。そのうち、男女別・年齢別人口は、最も基本的な構造として、人口総数とともに、各種の施策の基礎として広く用いられる。

この男女年齢別人口構造が枠の中で、労働力人口、産業別・職業別就業者、従業地別就業者、教育程度別人口、配偶関係別人口などがとらえられ、それぞれ利用の途は多方面にわたっている。

最近とくに重要性が高まつてきた世帯は、各種の施策の基礎として利用され、民間でもマーケティングのために利用度が増大している。

一方、人口動態統計は婚姻数や出生数の直接的な利用の途もあるが、それらを分析して、人口学をはじめ、関連科学の観点からの調査研究の重要な基礎材料として用いられ、将来人口予測に用いられる場合の方が多い。

人口統計の利用度が高まるとともに、経済計画を立案する場合の基礎として、将来人口の推計が国をはじめ、各地域でもさかに行なわれるようになった。推計方法には、総人口の過去の動向に傾向線をあてはめて延長する場合と、人口増加の要因ごとに将来の動向を断片して推計する場合とがある。

また、男女年齢別人口の推計は、基礎とする国調年次

の男女年齢各歳別人口に、仮定した各歳ごとの生残率を乗じて、翌年の一歳以上の人口を推計し、0歳人口は前年の女子年齢別出生率を年齢別女子人口に乗じてえた出生数から乳児死亡をさし引いて推計する。

全国の社会増加（出入国の差）は何千人という程度で、無視できるのに対して、府県や市町村別など、地域の将来人口を推計するには、人口転出入の推計が非常に難しい。それは、人口移動は経済的な理由によるものが多く、たとえば景気変動などによつて左右されるなど、その予測が困難だからである。

地域に関する人口統計は、戦後とくに豊富になつたといえるが、地域人口に関する問題が過密過疎の問題、地域格差の拡大、その是正のための地域開発、公害など地域問題の重大化にもなつて、人口に関する詳しい情報が必要とされる結果でもある。

国勢調査では、たとえば、従来の市部人口のほかに、昭和35年から「人口集中地区」を設けて、より実体的な都市人口をとらえることになつたのもその一例である。

人口統計の一般的な分析には、年齢別労働力率とか年齢別死亡率などのように男女を別々に考察することが必要な場合がある。また、人口構造の分析には、構造比指数を用いる場合が多く、人口動態の考察にはある期間——通例1年間——の出生数や死亡数の、その年の人口に対する比率、すなわち発生比指数を用いるが、人口密度のような場合には人口と土地面積を対比させた対立比指数を用いる。

人口構造において、たとえば、15歳以上の労働力率は各年齢階級の労働力率の、年齢ごとの人口を重さとする加重算術平均にほかならないから、別の年齢別人口を標準として用いて標準化（労働力）率を算定することがある。出生率や死亡率についても、人口千人についての率では年齢別人口の多少によつて、過大または過小に現われるから、標準化率を算定して、その実体に近づくようにする。

地域別人口の分析には、まず、単位地域のとり方に注意し、対象地域が全地域の中に占める地位を明らかにし、地域内での人口動態と構造との因果関係や、各人口現象についての各地域間の相互関係を分析して、その地域的特性をとらえなければならない。

人口現象と各種の経済的、社会的条件との相互関係を明らかにし、とくにわが国の複雑な地域的特性を究めていくことによつて、その地域における各種の施策や計画立案に貢献することが重要である。

地域メッシュ方式による新統計 国土実態総合統計について

総理府統計局国勢統計課

大 友 篤

はじめに

わが国における各種統計調査の結果表章の最小の地域単位は、従来、主として市区町村の地域である。しかし、昭和28年以降の市町村合併の促進によつて、その境界はいちじるしく拡大したため、その後人口移動の激化にともなつてクローズアップされた地域問題の解明には、市町村の境界にもとづく統計だけでは不十分で、市町村よりも小地域についての統計の必要が叫ばれるにいたつた。これに対する統計作成者側の対策は、国勢調査や住宅統計調査などの結果の人口集中地区別表章、農林センサスの農業集落別集計、国勢調査や事業所統計調査の調査区別集計などとしてあらわれた。しかし、これらの多くは、地域の範囲が調査の種類や年次などによつて異なるため、各統計相互間の比較や同種の統計の年次の比較が困難であること、調査区別集計の場合は、調査区そのものが統計表章の単位としては小さく、また、番号のみで表示され、その位置や範囲は調査区地図を参照しないと利用できないなどの欠点がある。

このため、総理府統計局では、昭和45年国勢調査にあつて、従来の市町村別、人口集中地区別や調査区別の結果の表章に加えて、人口20万以上の都市および県庁所在市の内部を人口5千人～1万人程度の地域に細分した「国勢統計区」別にも結果の表章を行なうことにしている。

一方、近年、地域開発計画、都市計画、都市再開発などの立案に際して、対象となる地域のなかを500m四方とか1km四方などの正方形の小地域に細分して、各地域別に人口、事業所数、土地利用型などの資料を収集し、分析するといういわゆる地域メッシュの手法が用いられるようになった。このような手法が用いられるようになったのは、①主要統計調査の結果は、ほとんど市町村別がその表章の最小地域単位であり、市町村の小地域別の統計は得にくい、②調査時点や表章の地域単位が異なる各種のデータを整理するには正方形の地域を用いるほうが作業上容易である、③地域の形状、大きさがそろつているのは、種々の比較、分析などに便利である、④任意の地域についてのデータが容易に得られないなどの理由によつている。

とくに、地域開発計画や都市計画などの策定にあつて、従来の行政地域別の統計は、その地域が不定形であるため、コンピュータによつてデータ処理をする場合には、利用しにくいところから、このような地域メッシュによるデータの収集がとくに最近盛んに行なわれるようになってきている。

そこで、総理府統計局では、小地域別統計の拡充と各種統計調査の結果の総合的、多角的利用をはかるために、国土を等面積の方形の小地域つまり「地域メッシュ」に細分して、国勢調査、事業所統計調査など主要な統計調査の結果を各地域メッシュ別に総合的に編集し、利用者にとつて利用し易い形式でそのなかからデータをとり出し、提供するという新式の統計「国土実態総合統計」の計画をうち出したわけである。そして、その試験的作業を首都圏の地域について行ない、昨年夏、その成果を公表した。

地域メッシュの手法

ところで、この地域メッシュの「メッシュ (mesh)」というのは、「ふるいの目」、「網の目」のことで、地域メッシュ法というのは、対象地域をいくつかの正方形にすぎ間なく細分して、各正方形ごとに、地図上で人口密度、家屋の数、耕地面積、森林面積、土地の高低などを計測する方法で、古くから、地理学の分野で開発され、用いられてきた手法である。

メッシュという呼び方は、わが国では広く使われているが、外国では、メッシュというよりは、グリッド (grid) ということのほうが多い。グリッドとは「格子」の意味である。このほか、グリッド・スクエア、プロック・グリッド、グリッド・コーデイネイトなども呼ばれている。

メッシュの大きさや形状は、分析や研究、調査などの目的によつて異なる。とくにメッシュの大きさは、用いる地図の縮尺、データの内容の精粗などによつてかなり異なつてくる。また、その形状は、かならずしも、正方形とは限らず、長方形、梯形、三角形、六角形などでもよい。しかし、通常は正方形が用いられることが多い。これは、縦線と横線によつて位置を単純に表示できること、距離や面積の測定が容易であること、地図化に便利であることなどの理由によつている。

この地域メッシュ法がはじめて提唱されたのは、1919年、スウェーデンの地理学者ステン・ド・ギールによつてであり、1929年に、フィンランドのグラニヨーによつて地域解析に1km²メッシュが使われて以来、地理学ではこの方法が広く用いられるようになった。さらに、近年、地域計画や都市計画などの策定にも、地域メッシュ法が盛んに用いられるようになったのは、前述のような多くの利点によるものである。

国土実態総合統計の作成方法

今回、試験的に行なわれた「国土実態総合統計」の作成は、この地域メッシュの手法を電子計算機に結びつけ

て応用したものである。試験的作成の対象地域は、首都圏すなわち茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京（島部を除く。）山梨、静岡（一部）の8都県におよび約45,700km²の地域である。また、これに編集されたデータは、昭和40年国勢調査、昭和41年事業所統計調査、および昭和43年住宅統計調査の結果である。

つぎに、その作成の方法の概略を説明しよう。

(1) 最初に、建設省国土地理院発行の5万分の1地形図上でその図郭線を縦横とも20等分し、各等分点を直線で結んで縦線を緯度30秒、横線を経度45秒ごとに区切つた約1平方キロメートル方形の地域メッシュを画く。この方法は、「経緯度法」と呼ばれるもので、昭和44年12月、統計審議会が答申した方法である。対象地域である首都圏の地域メッシュ数は45,700、そのうち茨城県の地域メッシュ数は約6,000である。

(2) つぎに、地形図に記載された各地域メッシュの縦線および横線を昭和40年国勢調査の調査区地図上に転写する。さらに、その地図を参照して、各地域メッシュ別にそれに含まれる調査区の番号をリストに記載する。

1調査区が2以上の地域メッシュにまたがるときは、市街地の場合は、その調査区のうち、面積が最も多く含まれる地域メッシュにその全域が含まれるものとみなし、非市街地の場合は、調査区要図を参照して、世帯数が最も多く含まれる地域メッシュに調査区の全域が含まれるものとみなした。また、1調査区内に2以上の地域メッシュが含まれる場合にも、前述の latter の場合と同様に取扱つた。

(3) (2)で作成されたりリストにより、地域メッシュのコードとそれに対応する調査区番号をパンチし、電算機によつて国勢調査の原テープ（20%抽出集計結果³の原テープ）を用いて、各地域メッシュ別に結果を編集し、その結果を磁気テープに記録する。

(4) 事業所統計については、地域メッシュの線上にまたがる昭和41年事業所統計調査の調査区を昭和40年国勢調査の調査区に組みかえる作業を行ない、これによつて、国勢調査の各調査区番号およびこれに対応する事業所統計調査の調査区番号（1事業所統計調査区が2以上の国勢調査調査区に分かれている場合は、事業所番号）をパンチして、(2)で作成されたりリストに基づき、電算機で事業所統計調査の原テープから、各地域メッシュ別に編集し、その結果を磁気テープに記録する。

(5) 昭和43年住宅統計調査結果については、その調査区は、国勢調査調査区と同一であるので、(2)で作成されたりリストに基づき、電算機で直接編集する。

すなわち、わが国の主要統計調査の調査区は、国勢調査の調査区を基礎として設立され、調査番号による対応リストがつくられているので、各地域メッシュに含まれる国勢調査調査区が決まれば、その他の統計調査の調査区の多くは、これに基づき、対応リストから電算機により各地域メッシュ別にデータの編集を行なうことができるわけである。

国土実態総合統計の内容とその利用

前記の(3)～(5)で編集されたデータを記録した磁気テープは、「国土実態総合統計磁気テープ記録」と呼ばれ、その内容は第1表のとおりである。任意の地域について、このテープのなかにあるデータが入用なときは、電算機により、随時このテープから所要の統計がとり出さ

れ、利用者に提供されるしくみになつている。（提供の方法については、目下、検討中である。）

しかし、このような方法では、統計の利用者の範囲が限定されるので、さらに、この国土実態総合統計磁気テープ記録から、とくに利用度の高いと思われる127の統計指標が「国土実態総合統計資料」という名称のプリントとして作成されている。これは、従来の統計表のプリントフォームと異なり、第2表のように、各地域メッシュを示す枠のなかに統計数値をプリントしたもので、これにより地域メッシュごとの数字を直接利用できる。これは、一般の利用者には、コピーまたはマイクロフィルムとして、日本統計協会を通じて提供されている。

また、この国土実態総合統計資料のなかから基本的な指標を20ほど選び、これを縮尺30万分の1の地図（各地域メッシュ、市町村境界、市町村名も記載、）上に統計数値の階級を色別に表示した「国土実態総合統計地図」（第1集人口、第2集就業状態・職業、第3集産業、第4集住宅）が印刷、刊行され、一般にも日本統計協会から頒布されている。

このように、国土実態総合統計は、単に統計表の形で利用者に提供するというものではなく、磁気テープ、マイクロフィルム、コピー、統計地図など、利用者の必要に応じて、任意の地域の任意のデータを任意の形式で提供するもので、まづたく新しい形式の統計といえる。また、その利用上の利点も多く、まづ、1平方キロメートルの地域を単位として、広狭さまざまの任意の地域についての統計が得られるので、たとえば、河川の氾濫による災害が発生した場合、氾濫地域の人口、住宅、農作物、工場等の数を正確にかつ容易に知ることができるので適切な災害対策をたてることが可能となる。

第2に、地域メッシュは、固定して設定されているので、年次別または定期的にデータをまとめていけば、広狭さまざまの地域について、従来、市町村別には、その境域の変動があつたため、むずかしかつた時系列による比較が容易にできることになる。

第3に、各種の統計が同一の地域単位でまとめられているので、電算機を用いることにより、各種の統計を総合的に任意の地域について利用することができる。たとえば、新しい工場団地をどこに建設するかというような場合、必要となる資料は、人口、地形、既存の会社、工場の分布、産業の種類、労働力の供給市場、製品の消費市場、交通条件など多岐にわたるが、これらを同時にとり出して利用することができる。

おわりに

昨年度、試験的に作成された国土実態総合統計は、首都圏のみを対象としたものであるが、各省庁や地方公共団体の地域計画などの部門ばかりでなく、その他の行政部門あるいは民間企業でも、大きな関心と呼び、その一部は、すでに利用されつつある。総理府統計局では、昭和46年から5か年計画で、全国を約1平方キロメートルの地域メッシュに細分し、この37万にのぼる各地域メッシュについて、昭和45年国勢調査、1970年世界農林業セサス、昭和47年事業所統計調査などの結果を編集し、本格的な国土実態総合統計の作成に着手する予定で、予算要求している。また、この国土実態総合統計は、総理府統計局でその設立準備中の「統計データ・バンク」のための小地域情報サービス・システムの一環として、大きな役割を果たすことになる。

第1表

国土実態総合統計磁気テープ記録の内容

対 象	組 合 せ 記 録 事 項
1 人口	男女(2)、年齢(101)、配偶者関係(5)
2 15才以上人口	男女(2)、年齢(14)、就業状態(6)
3 同上	男女(2)、従業・通学地(10)
4 15才以上就業者	男女(2)、年齢(7)、産業(41)、地位(4)
5 同上	男女(2)、年齢(7)、職業(41)、地位(4)
6 同上	男女(2)、産業(41)、職業(41)
7 外国	男女(2)、年齢(17)、国籍(3)
8 世帯	世帯の種類(2)、世帯人員(11)
9 世帯	同上
10 普通世帯	経済構成(12)、家族構成(6)
11 普通世帯	同上
12 住宅に住む普通世帯	世帯人員(7)、所有の関係(4)、室数(7)、畳数(11)
13 居室	同上
14 畳数	同上
15 事業所(民営・公営)	産業(97)、従業者規模(7)、経営組織(3)
16 従業者(民営・公営)	同上
17 住宅	住宅の種類(2)、構造(3)、建て方(2)、建築時期(5)、所有の関係(4)、室数(5)、畳数(5)、設備(2)
18 借棟	住宅の種類(2)、構造(2)、建て方(2)、建築時期1畳あたり家賃(9)、畳数(5)
19 棟数	建て方(3)、構造(3)
20 宅地面積	住宅の種類(2)、構造(3)、建て方(3)、建築時期(5)

(注) 組合せ記録事項のなかの () 内の数字は、階級区分の数を表わす。

第2表

国土実態総合統計資料
01 第1表 ジンコウ

等積地域符号 : 6339-45

	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99
9	3135 6 1590 5 1545 5	11410 8 5390 7 5520 7	10590 8 5505 7 5085 7	11060 8 5670 7 5390 7	11935 8 6150 7 5785 7	32430 9 16400 8 16030 8	31595 9 15885 8 15710 8	31585 9 16435 8 15150 8	331059 166458 164608	27460 9 13610 8 13850 8
8	80 13145 6 6610 7 6535 7	81 11980 8 5940 7 6040 7	82 22575 9 11265 8 11310 8	83 19325 8 9640 7 9685 7	84 16915 8 8655 7 8260 7	85 25345 9 12750 8 12595 8	86 35160 9 18345 8 16815 8	87 41985 9 21375 9 20610 9	88 388859 199758 158208	89 32510 9 16360 8 16150 8
7	70 12795 8 6595 7 6200 7	71 13895 8 7095 7 6800 7	72 17210 8 8625 7 8858 7	73 16180 8 8425 7 7755 7	74 26945 9 13610 8 13335 8	75 30965 9 15750 8 15215 8	76 30690 9 15240 8 15450 8	77 22075 9 11575 8 10500 8	78 311559 153358 158208	79 21800 9 10935 8 10865 8
6	60 13315 8 7100 7 6215 7	61 19675 8 9975 7 9700 7	62 15695 8 8010 7 7685 7	63 24410 9 12415 8 11995 8	64 18965 8 9800 7 9165 7	65 30395 9 14830 8 15565 8	66 23415 9 11610 8 11805 8	67 26985 9 13563 8 13425 8	68 309909 155908 154000	69 24820 9 12165 8 12655 8
5	50 13425 8 9250 7 9175 7	51 23120 9 11595 8 11525 8	52 28225 9 14560 8 13665 8	53 28295 9 14985 8 13310 8	54 27975 9 14390 8 13585 8	55 23135 9 11900 8 11235 8	56 20995 9 10320 8 10675 8	57 25365 9 12780 8 12585 8	58 166558 84207 82357	59 21595 9 11250 8 10345 8
4	40 24915 9 12695 8 12220 8	41 27980 9 14405 8 13575 8	42 32455 9 16665 8 15800 8	43 24810 9 12985 8 11825 8	44 28775 9 14570 8 14205 8	45 30070 9 15250 8 14820 8	46 23795 9 11915 8 11882 8	47 19915 8 11260 8 8655 7	48 336759 177008 159758	49 25575 9 13665 8 11190 8
3	30 21185 9 10830 8 10355 8	31 24775 9 12260 8 12515 8	32 27915 9 13980 8 13935 8	33 33075 9 16085 8 16990 8	34 30995 9 15980 8 17015 8	35 35700 9 18045 8 17655 8	36 26780 9 13005 8 13775 8	37 27790 9 13980 8 13810 8	38 255309 128458 126858	39 16630 8 7425 7 9205 5
2	20 9260 7 4725 6 4535 6	21 19865 8 10105 8 9760 7	22 19785 8 10375 8 9410 7	23 21205 9 10360 8 10845 8	24 35275 9 17795 8 17480 8	25 19885 8 9585 7 10300 8	26 13070 8 6600 7 6470 7	27 29640 9 14655 8 14985 8	28 186058 103808 82257	29 10710 8 5180 7 5530 7
1	10 10320 8 5115 7 5205 7	11 10580 8 5415 7 5165 7	12 16225 8 8120 7 8105 7	13 29450 9 15370 8 14080 8	14 38410 9 19760 8 18650 8	15 20555 9 9605 7 10950 8	16 15225 8 7125 7 8100 7	17 10030 8 4470 6 5560 7	18 118108 56457 61657	19 8615 7 4375 6 4240 6
0	00 12480 8 6420 7 6060 7	01 12410 8 6045 7 6365 7	02 19335 8 9765 7 9570 7	03 29380 9 15325 8 14055 8	04 20980 9 10965 8 10015 8	05 12360 8 6245 7 6115 7	06 8880 7 4350 6 4530 6	07 14065 8 6955 7 7110 7	08 90507 43006 47506	09 7600 7 3270 6 4330 6

(注) 黒線上部の数字は、地域メツシユコードの一部。点線下部は、上段の数字は総数、中央が男、下段が女を表わす。点線の右側の数字は、階級区分の符号である。